

## 途上国の貧困問題と農村開発 ～ フィリピンの協同組合

Poverty and Rural Development in Developing Countries - Cooperatives in the Philippines

## ■なぜ農村開発なのか～貧困の問題

## ・低ケイパビリティとしての貧困

貧困とは、単に所得が低いだけではなく、日常生活のリスクに弱く本来の能力を発揮できない（ケイパビリティが低い）状態を言います。たとえば、食物がないだけでなく、病院や学校に行けない（病院や学校が近くにない、そこに行くお金がない、差別がある）、というものも含まれます。

## ・人々に機会を与えるための農村開発

貧困状態にある人は安定した生活を送れず、努力をする機会を奪われています。農村開発は、農村のそうした人々に、努力を实らせ生活を立て直す機会を与えるために必要です。



## ■農村開発と協同組合

## ・農村開発の基礎と期待される協同組合

農村の生活の向上には、農民がお互いに力を合わせる必要があります。協同組合は、そのように農民たちが自らの意思で力を合わせようという参加型組織で、農村開発の基礎として期待されています。

## ・農民を資本主義に適応させる協同組合

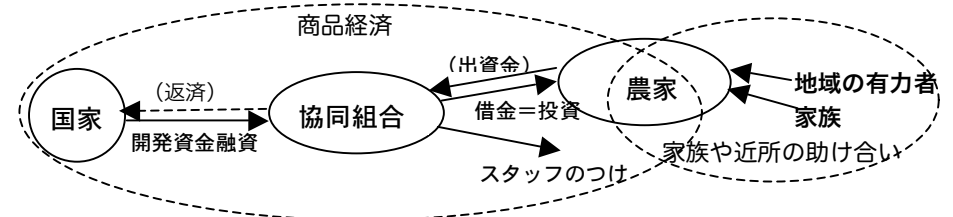
現在、人々の生活は資本主義経済に取り囲まれています。自然に依存する農業は必ずしも資本主義に適していません。協同組合はこうした農民たちをうまく資本主義経済に参入させ、農村の経済的状況の改善に貢献すると考えられます。



## ■フィリピン・ボホルルの協同組合問題の構造

## ・機能不全が多いフィリピンの協同組合～フィリピン・ボホール州の協同組合

フィリピンでは、政府の支援で数多くの協同組合が設立されました。しかしその 60% は機能不全に陥っています。次の図はその一例で、フィリピン中部のボホール州のある協同組合における資金の流れです。この協同組合では農家に低利で融資して農家の生産向上を促そうとしています。実際には農家は借金を返済せず、協同組合のスタッフも資金を使い込んでいます。なぜ農家は生産に投資しないで使い込むのでしょうか。



## ・生活リスクの分散の重要性

農民はお金を返さずだらしが無い、とよく言われます。しかし、天候不順など予測不能な危険に直面する農民たちは、生活のために生産投資よりもお金を使い込まざるを得ません。そしてそれは、東南アジア島嶼部（マレー世界）では農民たちの慣習的権利なのです。



## ■フィリピン社会を支えるマレー的社会関係

## ・マラッカ王国～東南アジア島嶼部の社会秩序の起源

1403 年にマレー半島西海岸に生まれたマラッカ王国は、イスラム教を取り入れ、中国やインド、中東の商人を引き寄せ、世界の交易の中心となりました。その結果、マラッカ王国の言葉、慣習、法制度は、東南アジア島嶼部全体に普及しました。この当時の社会秩序は今日でも生きています。フィリピン・ボホールもそうした地方の一つです。

## ・マレー世界の社会秩序と今日のフィリピン農民

マラッカ王国の影響を受けた地域を「マレー世界」と言います。そこでは、地方首長は農民に利益を与える限りでその地位を維持できることや、農民は未開墾地を自由に使えることなどが、慣習法により認められています。フィリピンの協同組合を巡る人々の行動の背景には、こうした社会秩序があるのです。

